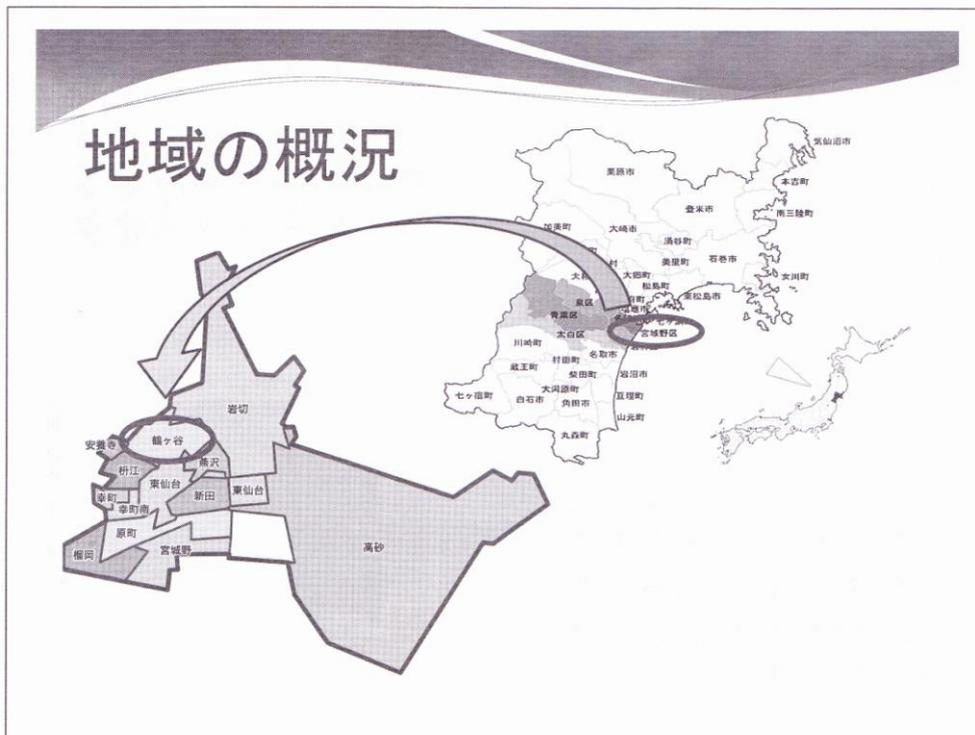
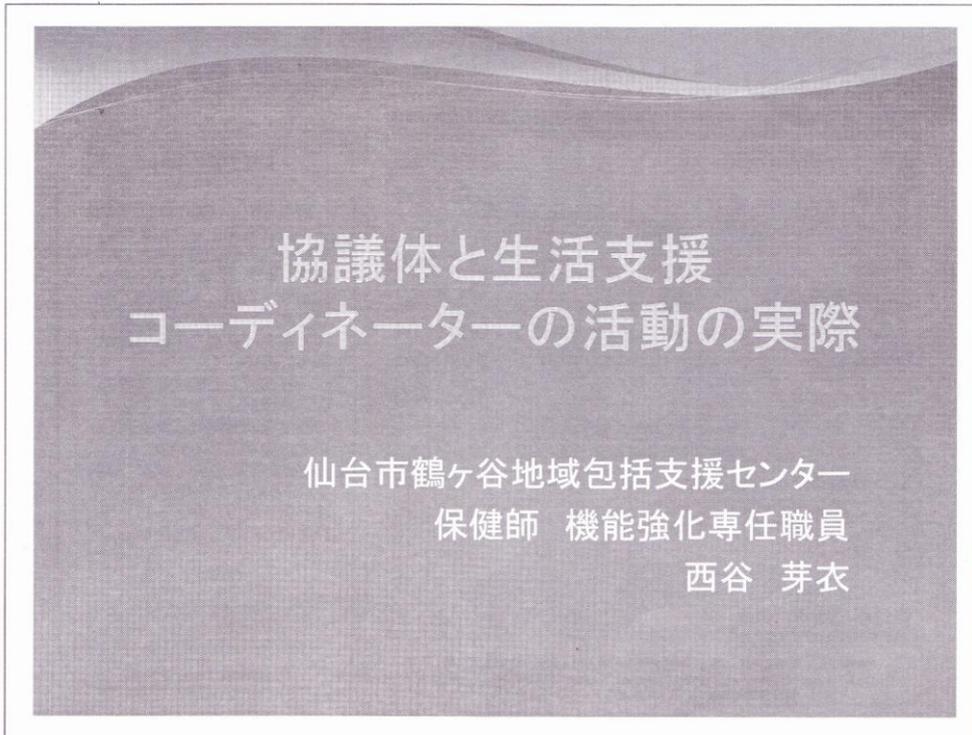


実践報告

「協議体と生活支援コーディネーターの活躍の実際」

仙台市鶴ヶ谷地域包括支援センター 西谷芽衣さん



## 仙台市概況①



仙台市概況	平成27年4月1日現在
面積 (H26年10月1日現在)	786.30km <sup>2</sup>
世帯数	489,937世帯
<b>人口 (単位 人)</b>	
総数	1,050,296
15歳未満	137,303
15～64歳	687,414
65歳以上	225,579
うち75歳以上	104,979
<b>割合 (単位 %)</b> 小数第2位を四捨五入したもの	
15歳未満	13.1
15～64歳	65.5
65歳以上	21.5
うち75歳以上	10.0
要介護認定率 (単位 %) 少数第2位を四捨五入したもの	19.2

《参考URL》統計情報せんだい 「住民基本台帳人口・年齢別住民基本台帳」  
 < <http://www.city.sendai.jp/kikaku/seisaku/toukei/> > (参照2015/9/21)  
 要介護認定率は：介護予防推進室データより抜粋

### 仙台市の概況

慶長5年(1600年)に伊達正宗公が青葉山に居城を定めて以来、有数の城下町として栄え、明治22年(1889年)に市制施行後、100周年の節目である平成元年(1989年)東北で初めての政令指定都市になる。

「社の都」と呼ばれる豊かな自然環境、「学都」としての高度な研究開発機能を有し、東北の中核として発展。

平成23年(2011年)3月11日の東日本大震災では甚大な被害を受けたが、一日も早い復興へ向けて歩んでいる。

《参考URL》  
 仙台市ホームページ  
 「Data!仙台2014」  
[http://www.city.sendai.jp/kikaku/seisaku/yoran/data\\_sendai/index.html](http://www.city.sendai.jp/kikaku/seisaku/yoran/data_sendai/index.html)  
 (参照2015/9/21)

## 仙台市概況②



祭りやイベントが豊富なまち、 仙台!	開催期間 (2015年～2016年)
仙台国際ハーフマラソン	5月10日
仙台・青葉まつり	5月16日～17日
東北六魂祭(秋田市)	5月30日～31日
とっておきの音楽祭	6月7日
夏まつり仙台すずめ踊り	7月25日～26日
仙台七夕まつり	8月6日～8日
定禅寺ジャズフェスティバル	9月12日～13日
仙台クラシックフェスティバル	10月2日～4日
みちのくYOSAKOIまつり	10月10日～11日
SENDAI 光のページェント	12月6日～31日 (31日は24:00消灯)
どんと際(仙台八幡宮)	2016年1月14日

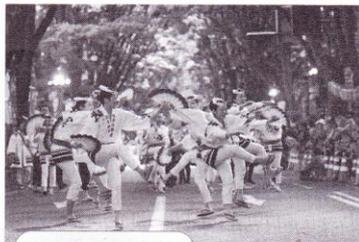
《参考URL》仙台市ホームページ「イベント情報」  
 < [http://www.city.sendai.jp/kankou/event/1191979\\_2368.html](http://www.city.sendai.jp/kankou/event/1191979_2368.html) >  
 (参照2015/9/21)

仙台七夕花火祭  
(2015年8月5日)



色鮮やかな七夕飾り

画像提供  
仙台七夕観光協会



「社の都・仙台」を  
象徴するケヤキ並木  
にお囃子が鳴り響き、  
活気が溢れる

画像提供  
仙台・青葉まつり  
協賛会

## 鶴ヶ谷地区①(地区全域)

平成27年4月1日現在 (包括担当圏域外を一部含む)

世帯数	7,871世帯
<b>人口(単位 人)</b>	
総数	16,759
15歳未満	1,819
15～64歳	9,156
65歳以上	5,784
うち、75歳以上	3,012
<b>割合(単位 %)</b> ※小数第2位を四捨五入したもの	
15歳未満	10.9
15～64歳	54.6
65歳以上	34.5
うち、75歳以上	18.0

《参考URL》 統計情報せんだい  
「町名別年齢(各歳)別住民基本台帳人口データ」  
< <http://www.city.sendai.jp/kikaku/seisaku/toukei/> > (参照2015/9/21)

### 鶴ヶ谷地区の概況

鶴ヶ谷地区は、昭和30年代後半から造成が開始され、昭和40年前半に移住が始まった仙台市内でも古くて大規模な住宅団地である。JR仙台駅から北東約5kmの距離にあり、主な交通手段は車やバス。鶴ヶ谷市営住宅や鶴ヶ谷公園住宅という大規模な集合住宅が圏域内の中心部にあるのが大きな特徴である。現在は「鶴ヶ谷第一市営住宅団地再整備事業」が進行しており、コミュニティの活性化を図る施設の整備や福祉施設の建設、生活利便性の向上につながる民間施設の立地を誘致するなど、今後地域内が大きく生まれ変わることが予測される。

《参考文献》

鶴ヶ谷地区健康まちづくり推進連絡会  
「鶴ヶ谷地区健康情報誌ぐるっと!まるっと!」

《参考URL》

<http://www.miyagi.coop/smt/publishing/press/detail/469/>

(参照2015/9/21)

《参考URL》 仙台市ホームページ  
「鶴ヶ谷第一市営住宅団地再整備事業」  
[http://www.city.sendai.jp/suhyo/suimai/chintai/1190907\\_1621.html](http://www.city.sendai.jp/suhyo/suimai/chintai/1190907_1621.html)  
(参照2015/10/1)

## 鶴ヶ谷地区②(圏域内)

平成27年4月1日現在

<b>人口</b>	
人口(総数)	13,994
65歳以上	5,090
75歳以上	2,776
<b>割合(単位 %)</b> ※小数第2位を四捨五入したもの	
65歳以上	36.4
75歳以上	19.8
要介護認定率(単位 %)	20.0
小数第2位を四捨五入したもの	

### 圏域内特徴

市営住宅	①第一市営住宅 高層棟 4棟 ②第二市営住宅 高層棟 2棟 中層棟45棟 低層階(簡易二階建て)14棟 鶴ヶ谷団地内市営住宅 合計 65棟
UR賃貸(公団)	①2丁目公営団地 20棟 ②5丁目公営団地 11棟
復興公営住宅	H28年までに2棟完成 (1棟はH27年12月に完成)

《参考資料》人口・割合・要介護認定率：仙台市介護予防推進室データより抜粋  
市営住宅件数：仙台市都市整備局市営住宅課管理係 データより抜粋  
UR賃貸住宅件数：東北プランニング 2013年 宮城野区 鶴ヶ谷MAP

### 介護保険予防給付数

平均299.8件

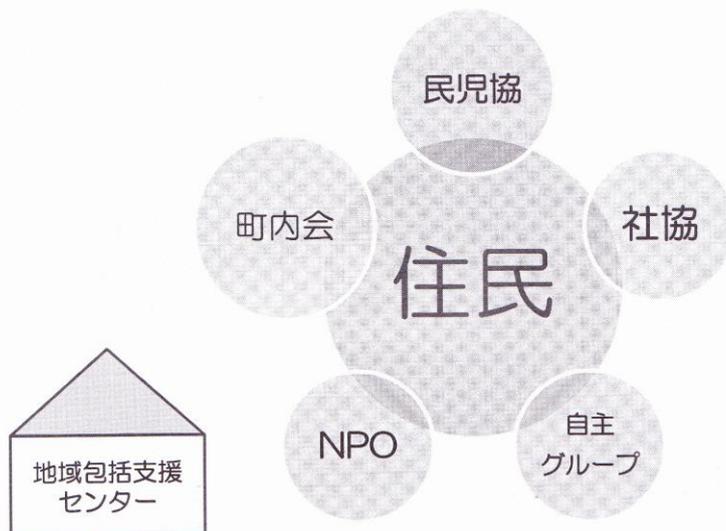
(H26年11月～平成27年4月給付件数平均値：仙台市高齢企画課)

### 職員体制

所長(社会福祉士兼務) 1名  
主任介護支援専門員 1名  
保健師 2名  
内1名は専任職員(生活支援コーディネーター)  
社会福祉士 1名  
介護支援専門員 3名  
事務員 1名

常勤9名

## 助け合い活動・生活支援サービスの現状



## 生活支援コーディネーター配置の経緯

### 仙台市における生活支援コーディネーター配置の経緯

H26年12月	厚生労働省老健局より、地域ケアシステム構築に向けた「生活支援・介護予防の基盤整備に向けた取組」において、生活支援コーディネーターの配置及び協議体の設置について提示。
平成27年2月	<p>仙台市地域包括支援センター連絡協議会より、第2層（中学校区）においての活動展開を充実させるために、地域包括支援センター内に「生活支援コーディネーター」を配置することを要望。</p> <p>仙台市が地域包括支援センターの機能強化を図るための専任職員※（以下、機能強化専任職員）を、担当圏域の高齢者人口、認知症相談件数等を勘案し、仙台市内全50か所の地域包括支援センターのうち、25か所に1名ずつ配置する方針を示す。</p> <p>※①地域づくり、②生活支援サービスの充実、③認知症の対応強化の取り組みを一体的に推進することを目的とし、3職種の内いずれかであること、生活支援コーディネーター及び認知症地域支援推進員となること等を条件としている。</p>
平成27年3月	25か所のセンターに委託予定である旨通知。
平成27年4月～	25か所のセンターにおいて、機能強化専任職員の活動開始。

# 総合事業移行まで

## 平成27年

- ・25か所の地域包括支援センターに「機能強化専任職員」を配置
- ・活動状況を市へ報告
- ・生活支援コーディネーターの具体的な業務内容については、仙台市が検討中

## 平成28年度以降

- ・次の25か所の地域包括支援センターに機能強化専任職員を計画的に配置
- ・各センターの活動状況等をふまえ、仙台市が協議体を設置

## 平成29年

地域支援事業移行

# 活動状況①

月	活動計画	活動実績	研修 (仙台市)	研修 (仙台市地域包括協議会・仙台市社会福祉協議会共催)
4月	①社会資源把握・整理 ②地区特性把握・分析 ③鶴ヶ谷サポーター (以下：鶴サボ)養成講座DVD【第2弾】打ち合わせ・作成	①地区特性把握・課題分析 ②社会資源の把握・整理 ③鶴サボDVD第2弾作成(打ち合わせ・撮影)	4/24(金) 【第1回】 専任職員ミーティング(顔合わせ、情報交換など)	—
5月	①～③継続 ④関係機関・地域への周知活動	①地区特性把握・課題分析 ②鶴サボDVD第2弾作成(撮影・編集) ③地域行事参加(3回) ⑤介護予防教室開催(1回) 鶴サボDVD2上映 ⑥運動サポーター養成講座参加	—	5/23(土) 【第1回】 生活支援コーディネーター研修 (地域包括ケアシステムと生活支援コーディネーターの役割/社会資源開発の視点と方法)

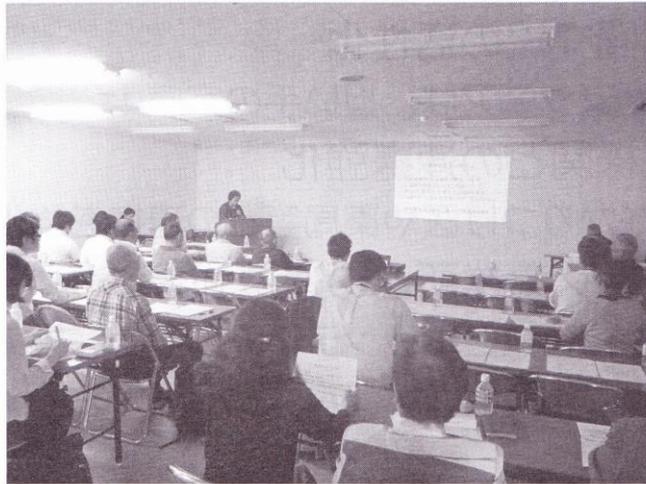
## 活動状況②

月	活動計画	活動実績	研修 (仙台市)	研修 (仙台市地域包括協議会・仙台市社会福祉協議会共催)
6月	保健師へ専任職員引継 5月までの活動計画 ①～④継続	①地区特性把握・課題分析 ②広報誌にて周知活動 ③地域行事参加 (7回) ④介護予防教室開催 (1回)	6/23(火) 【第2回】 専任職員 ミーティング (情報提供、 情報交換)	—
7月	①～④継続	①地区特性把握・分析 ②要支援認定者ニーズ把握・展開方法の検討 ③地域行事参加 (4回) ④介護予防教室開催 (2回) ⑤運動サポーター養成講座参加 ⑥介護予防・日常生活総合事業早期移行推進セミナー参加 (宮城県長寿社会政策課主催) ⑦認知症ケアパスワーキング参加	—	7/14(火) 【第2回】 生活支援コーディネーター研修 (社会調査技法)

## 活動状況③

月	活動計画	活動実績	研修 (仙台市)	研修 (仙台市地域包括協議会・仙台市社会福祉協議会共催)
8月	①～④継続 ⑤運動自主グループ向けアンケート調査票作成・検討	①地区特性把握・分析 ②要支援認定者ニーズ把握・展開方法の検討 ③地域行事参加 (2回) ④介護予防教室開催 (1回) ⑤宮城野区社協CSWと活動状況等の情報を共有 ⑥認知症初期集中支援チーム研修参加 (仙台市) ⑦運動自主グループ向けアンケート調査作成・検討 (家庭健康課・運動自主グループ代表)	8/28 【第3回】 専任職員ミーティング (情報提供、情報交換)	—
9月	①～④継続 ⑤地区特性に応じた、活動展開の検討	①地区特性把握・分析 ②運動自主グループ向けアンケート調査作成・検討 (家庭健康課・運動自主グループ各会場リーダー) ③運動サポーター養成講座参加 (区主催) ④認知症ケアパスワーキング参加 (仙台市) ⑤地域行事参加 (4回) ⑥ネットワーク会議開催 (1回)	9月～地域課題 分析レポートの 作成準備	—

## 鶴ヶ谷地区の地域包括ケアを目指して ～新しい総合事業に向けたネットワークの再構築～



## 実践活動発表



## 今後の課題

### ①世代間交流の活性化

アクティブシニアは、担い手の宝庫！

### ②医療機関との連携強化

近隣のかかりつけ医や薬局等との連携を強化

### ③サービス事業所との連携強化

専門的サービスとボランティアの中間を模索  
例)「ちょボラ」(有償ボランティア)

## おわりに

地区特性の把握や社会資源の整理を丁寧に行う

・補足、強化が必要な部分分かる！

「知性」と「感性」の組み合わせ

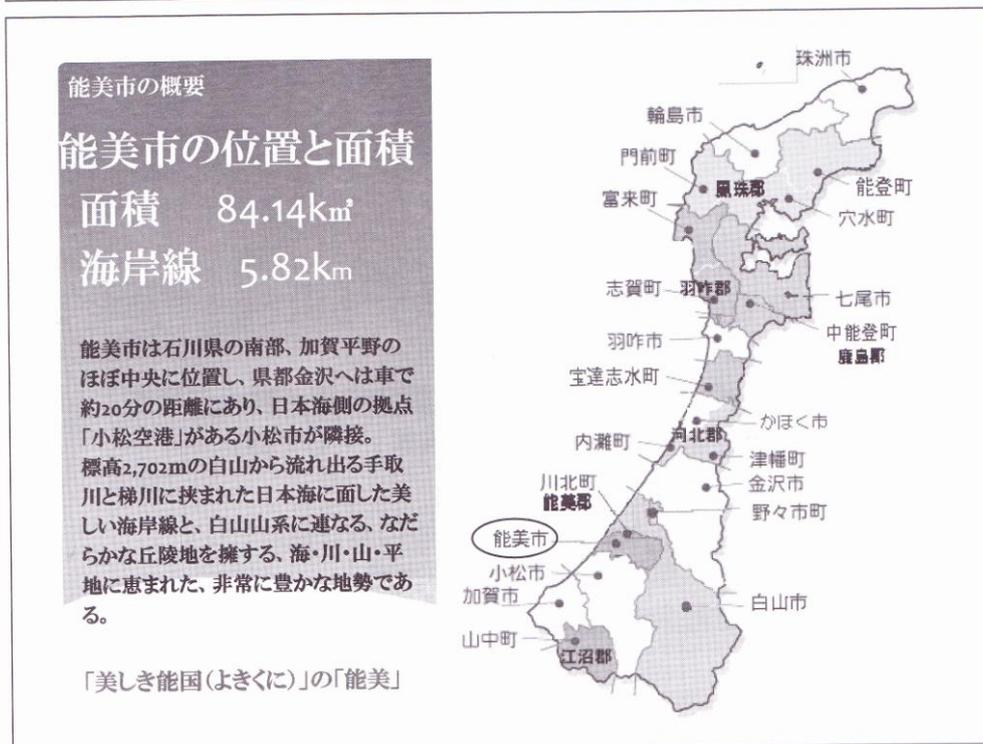
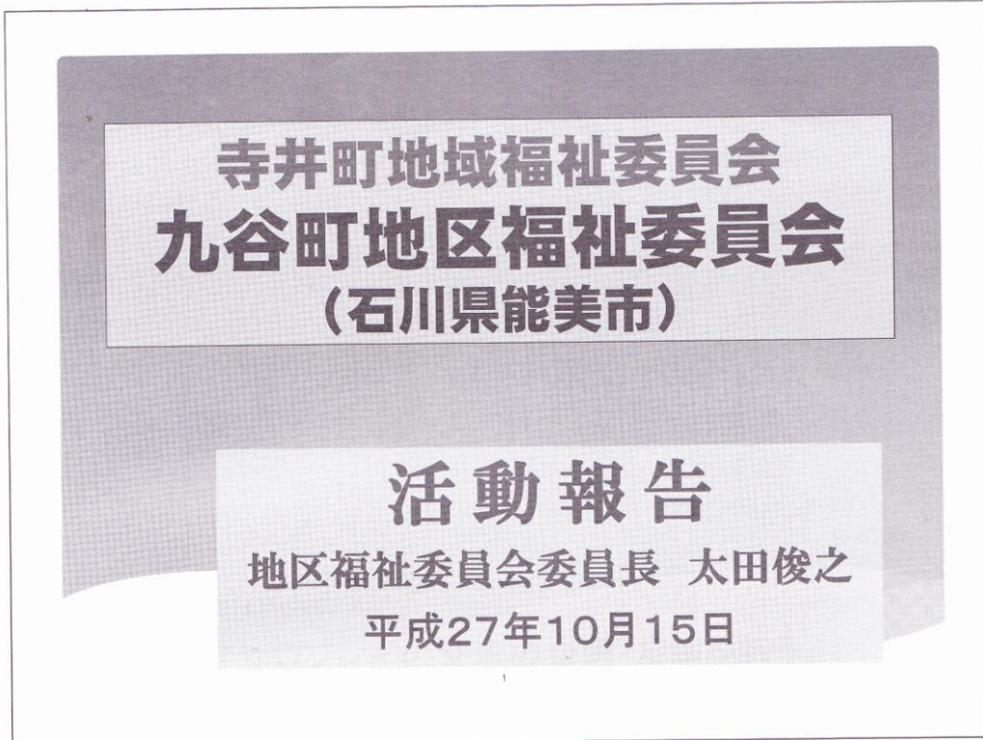
・展開方法の可能性は無限大！

御清聴ありがとうございました

実践報告

「協議体と生活支援コーディネーターの活躍の実際」

能美市九谷町地区委員会 太田俊之委員長・福祉推進員



## 能美市

人口 49,867 人  
世帯数 17,176 世帯  
高齢化率 24.17 %

## 九谷町 (市中心部・住宅街)

人口 695 人  
世帯数 272 世帯  
高齢化率 28.49 %

(平成27年9月1日現在)

3

## これまでの歩み

- \* **平成11年12月**  
**第1回目の会合 (見守り会として)**
- \* **構成：**  
区長代理・老人会代表・友愛会代表・民児協代表  
社協担当で「見守りネット会議」として発足
- \* **目的**  
孤独死する人を出さないための取り組みとして  
お互いに見守りあうことから出発  
(寺井町社会福祉協議会からの呼びかけに応じて)

4

120

## 「地区福祉委員会」と「見守り会」の関係は

能美市が合併し、「能美市地域福祉計画」・「能美市地域福祉活動計画」に則り、小地域活動を推進

- \* 地区福祉委員会の発足 平成20年11月16日
- \* 地区福祉委員会の中での「見守り会」の位置づけは
- \* **地区福祉委員会幹事会** ↔ **見守り会**

組織の一本化

- \* 見守り会(幹事会)を月1回行い、その中で要援護者の情報交換や生活の問題について話し合い、解決に向けて繋げる。
- \* いきいきサロンなどの交流の企画・反省を行う。

## 能美市では小地域活動の基盤 地域福祉委員会を推進



### 地域ぐるみの見守りや支えあいを進める組織

74町会ごとに「地域福祉委員会」を設置 90.5%

・単位は、町(内)会とする。(情報伝達のしきみと強いまとまり)

・町会長が、委員長となる。

町会役員・公民館・民生委員児童委員・福祉推進員・各種団体・住民が参加 … 地域福祉は、福祉関係者だけでなく、まちぐるみの体制で

〈幹事会〉

1. 町の状況を住民自身が把握し、話し合う。
2. だれかの困りごとを、町の皆の問題として見て、解決を考える。
3. 隣近所、各種団体等、町の皆が連携しあい、解決策を実践する。
4. 地域福祉委員会の活動にいきいきサロンを位置づける。

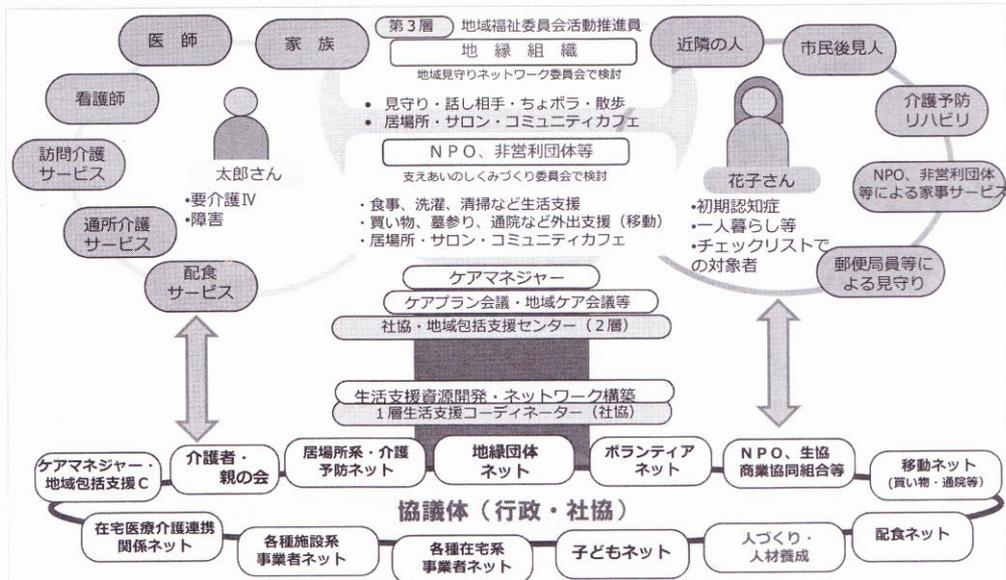
能美市では、町会ごとに  
 地域・地区福祉委員会組織している。  
 民生委員・児童委員、福祉推進員、町会役員と  
 地域福祉委員会活動推進員が、  
 中核となって活動している。

この地域福祉委員会活動推進員に  
 第3層の生活支援コーディネーターの  
 役割を担ってもらうように研修していく予定。

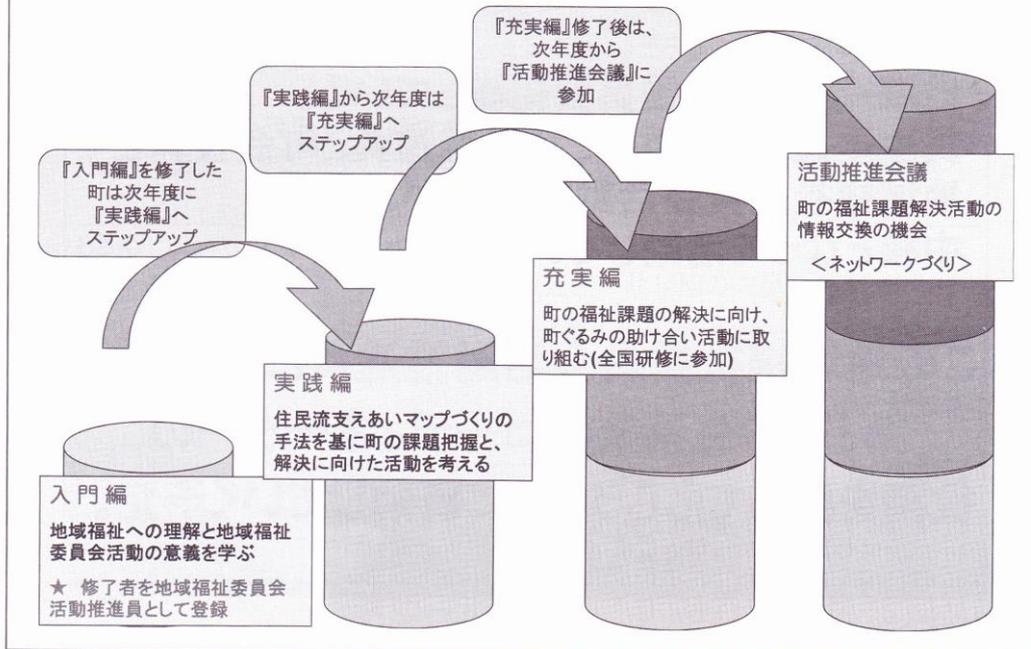
21

## 地域のネットワークのイメージ

### 生活支援サービス推進協議会（協議体）及び生活コーディネーターの配置



社協は、「地域福祉委員会活動ヒント探し講座」で段階的に人材育成と活動の充実に向けて支援



**1人の問題を全体のこととして考える。**

- ・地域の支えあい・助けあいが進む。
- ・町の人々のつながりが生まれる。
- ・住民ができることとできないことを考え、さがす、つなげる。

⇒

**町のことを一番知っているのは、その町だから…**

**だからできることがあると実感!!**

## 活動の経費

- \* \* 町会よりの助成金
- \* \* 町内会よりの助成金
- \* \* 市社会福祉協議会より助成金

25

## 今後の課題

※町民だれもの困りごとに対応したい。

- ・要援護者の願いやニーズをさらに把握したい。
- ・住民流支えあいマップづくりからも課題を把握
- ・誰もが気軽に集まれる場所づくり、何でも相談できるおしゃべりの場づくりを進める。



集会所の開放を通じて把握

※地域で支えあうために専門職にも参加を呼び掛ける。

26

.....  
コーディネーター

一般社団法人医療介護福祉政策研究フォーラム 中村秀一理事長

[ 質疑応答のあと ]

もっと続けたいのですが、わたしの持ち時間の制約がありますので、これで質疑は終わらせていただきます。

協議体と生活支援コーディネーターの整備の実際ということですが、27年、28年、29年にこういうものをつくるようにということが法律改正でもありますし、今年度始まって半年で、きょう4人の方の実践報告の中でもまだ始まったばかりということはあったと思いますが、先頭ランナーとして貴重な困難な状況での報告をしていただいた。そういう点で4人の方々に感謝したいと思います。

お話を聞いていると、こういうふうに先頭をきって走っておられるということは、それぞれに積み重ねがあつての上で、20年来のあるいは平成11年からの積み重ねの上で、それぞれの地区でファーストランナーとして走っておられる。そう考えると、われわれ自分の地域はそういう意味ではちょっと思っておられる方もあるかもしれません。

いま置かれている状況は、そういう中で制度としてはこの3年間にやらなければならないわけで、アクセルを踏むことは要請されている。しかしもう少し丁寧に積み重ねをしたい。そう考えると、中長期的に5年後、10年後、20年後を考えて、そのための種をいま播く。いま十分にはできないけれど播く。子育てほかの事業もあるし、国のおかねも一層二層にしか出ないし、そういったさまざまな制約があるかと思いますが、今日の話聞いていて、先を見越した取り組みが大事だなと、そういった意味では中長期的にどういう地域をつくるのか、その方針を立てたら、いまやるべきことはさまざまな制約のもとで苦しいわけですが、その方向でいけばかならず将来そこにたどりつくということでやっていく必要があるのではないかなと、実践報告をお聞きしながら思った次第です。

2000年4月に介護保険が始まりました時には給付の72%は施設介護で、在宅ケアは28%しかなかった。3.6兆円で始まった介護保険は今日、10兆円になっておりまして、その中で施設費用は35%まで落ち、残りは全部在宅・居宅介護が増えていく。そういった意味では、地域で支える力がずっと充実してきています。その土台の上に立って、公助だけでは足りない、やはり共助・互助の支え合いで地域づくりをする。

お話を聞いていると、地域づくりというのは福祉のしごと、介護保険のしごとをすることに聞こえる部分もありますが、いま世の中で求められているのは、地域創生とかそういうことでも、消えてしまわないような地域をつくっていくこと。その中核が介護・福祉・子育て・医療ではないか。そういうふうには考えられる。高齢社会網を維持する視点だけではなく、地域をつくるなかで中心的役割をはたすのが、福祉・医療・介護・子育てではないか、そういう視点に立って進めていく。

そうだとすると、いわゆる福祉のプロだけが集まるのではなくて、町を構成している人みんなに入ってもらって、介護・福祉のことを考え参加してもらおう。それが求められている方向ではないか。介護保険の制度改正は、それに向けてのひとつのささやかな制度改正で、しかし重要な制度改革である、新しい社会、地域をつくっていくひとつの推進力である、そう考えて取り組んでいく必要があるのではないか。ということをコーディネーターの特権として、この実践報告のセッションの総括とさせていただきます、終わらせていただきます。

どうもありがとうございました。